

N P O 防 災 千 葉

特定非営利活動法人 防災千葉

千葉市中央区本町 1-6-24 (渡辺コーポ 102号)

E-mail bosai@bosai-tiba.jpHomepage <http://www.bosai-tiba.jp>

Fax 043-301-3820

■ <理事長のあいさつ>

本年も3月に入り、寒さの中にも春の気配を感じる頃となりましたが、新春の「会報」の発行にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

全世界で猛威をふるう新型コロナウイルスは幾種もの変異株に移行し、本年で3年目に突入しました。新年に入りオミクロン株の感染が急拡大する中、開催を予定しておりました「防災関係建設技術研修会」は、昨年に引き続き感染拡大防止の観点から残念ながら中止とさせていただきました。聴講を予定されていた皆様ならびに講演の準備をしていただいた講師の皆様には、ご迷惑をおかけすることとなり深くお詫び申し上げます。

今回予定していました演題は、「令和元年10月25日の大雨」と命名された豪雨により大規模氾濫が生じた一宮川水系の流域治水について、同じくこの豪雨により県内各所で人的被害が発生した土砂災害の防止に向けた取り組みについて、そして老朽化が進行する橋梁やトンネル等の点検や修繕に関する県管理道路の長寿命化についての3題でした。何れの演題も災害から県民を守る「防災県」千葉の確立に向けての重要な施策の一つであると認識しております。

さて、近年の災害を改めて見てみると、平成28年熊本地震、平成29年7月九州北部豪雨、同30年7月豪雨、大阪府北部地震、北海道胆振東部地震、令和元年の房総半島台風、東日本台風、10月25日の大雨、そして昨年は7月、8月の集中豪雨、福島沖を震源とする地震など、毎年のように多くの犠牲者を伴う自然災害が発生しています。

本年に入り1月15日には南太平洋のトンガ諸島で海底火山の大規模噴火があり、約8000km離れた日本沿岸では、通常の「海中を伝わる津波」より2時間も早く1メートルを超える高さの潮位変化が観測されました。気象庁は急遽、津波警報・注意報を発表しましたが、今回の津波は激しい噴火に伴う気圧の変化で生じる「空振」が原因ではないかと指摘されています。

私たちの活動の一つである出前授業「語り継ぐ災害 地震津波災害」では、東日本大震災の教訓から「海辺では揺れたらすぐに高台へ」、「揺れずとも津波警報即逃げろ」という津波に対する心構えを子供たちに唱和してもらっています。今般、「揺れを伴わない気象津波」が現実に起こりましたが、これも教訓の一つとして高まる自然災害に備えたいものです。



干支の挿絵 NPO会員 御園生 孝さん 画

今年は昭和37年に迎えて以来の壬寅の年だそうです。壬寅は「陽気を孕み、春の胎動を助く」と云われる通り、今年こそ「厳しく辛い冬が終わり、生命力に溢れた温かい春が来る年」であってほしいものです。

NPO防災千葉といたしましても引き続き「災害に強い県土づくり、地域づくり」に寄与できるよう各種事業に取り組んでいく所存でありますので、会員の皆様の変わらぬご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

NPO防災千葉 理事長 増岡 洋一

■ <防災関係建設技術研修会について>

令和4年1月に開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の急激な拡大状況に鑑み、関係機関との協議の結果、中止することといたしました。当日の講師の皆様と講演の概要を紹介いたします。

(1) 一宮川水系流域治水について 河川整備課 課長 松宮正紀 様

- ・令和元年10月25日の大雨による浸水被害
- ・一宮川流域浸水対策特別緊急事業
- ・一宮川水系流域治水プロジェクト

令和元年10月25日の大雨による浸水被害 6



一宮川水系流域治水プロジェクト (R3.3.30)

- 一宮川の周辺地域では、令和元年水害対策に加え、気候変動による豪雨の激甚化・頻発化に備え、中小河川としては全国に先がけ、「一宮川水系流域治水プロジェクト」を推進



第2回一宮川流域治水協議会（県・流域市町村長）

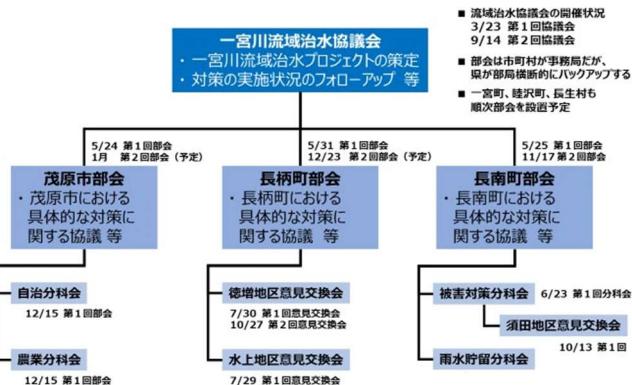


一宮川流域治水協議会 長柄町部会（地元を交えた流域治水の検討）

(2) 県管理道路の長寿命化について 道路環境課 副課長 中山康士 様

- ・道路管理を取り巻く状況
- ・「道路法等の一部を改正する法律」の改正
- ・道路メンテナンス会議
- ・県管理道路施設の点検と修繕状況
- ・長寿命化修繕計画

一宮川水系流域治水協議会 31



○ 修繕実施状況

修繕状況：令和3年度道路メンテナンス会議資料より

千葉県の修繕実施状況

県内の国管理・市町村管理・道路公社管理も含む

道路施設	R1末 Ⅲ・IV判定施設数 (A)	R2末 修繕設計着手数 (B)	R2末 修繕工事着手数 (C)	修繕着手率 (B/A)	R3修繕 予定数 (内 Ⅲ判定)
橋梁	1231	256	217	20.8%	115 (95)
トンネル	108	90	24	83.3%	43 (19)
道路附属物等	205	97	28	47.3%	34 (28)

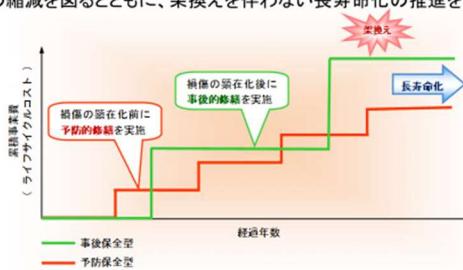
※道路附属物等：大型カルバート、シェッド、横断歩道橋、門型構造

※「令和3年7月1日現在連絡値」

5-3-⑥ 長寿命化修繕計画(橋梁)

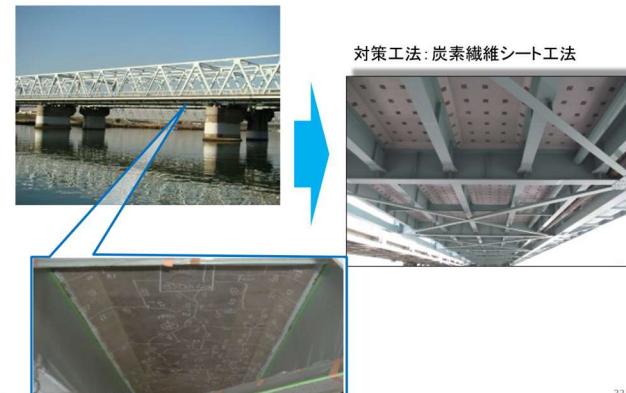
長寿命化修繕計画の基本方針

【対策工の検討方針および長寿命化によるコスト縮減イメージ】
定期的な点検と健全性の診断により損傷が顕在化する前に対策を講じる予防的な修繕の実施により、従来の事後的な修繕および架換えに比べて維持管理コストの縮減を図るとともに、架換えを伴わない長寿命化の推進を図ります。



5-5-④ 修繕事例(橋梁) 床版補強対策

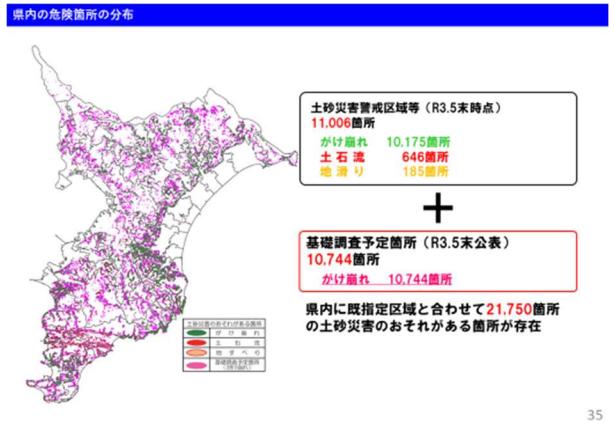
・ RC床版のひび割れ



(3) 土砂災害防止に向けた取組について

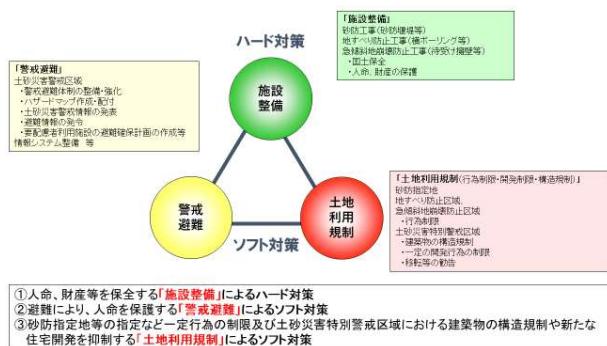
河川環境課土砂災害対策室 室長 丸山正樹 様

- ・令和元年の土砂災害
- ・土砂災害警戒区域等の指定に向けた取組
- ・新たな危険箇所の選定と公表
- ・基礎調査予定箇所に係る住民への周知事例等
- ・令和元年の災害関連緊急事業の紹介



35

土砂災害防止対策の3本柱



14

38

■ <語り継ぐ災害「地震津波災」九十九里外房地域>

九十九里外房地域は過去に元禄地震や関東大震災など大きな地震津波災害を受けてきた地域です。

そこでこれまでの地震津波災害、東日本大震災で津波にあわれた方の体験談、そして強い地震の揺れがあったらどのように対応するかについて、子供たちにわかりやすく説明し伝えることにより防災対策への関心を育み手助けできるよう、主に小学校高学年生を対象に出前授業を平成25年度から実施しています。

令和3年度は、東日本大震災で津波の被害を受けた旭市内の小学校3校で、新型コロナウイルスの緊急事態宣言が明けた11月に市役所、教育委員会の協力を得て事前調整を行い感染防止対策に配慮しながら、出前授業『語り継ぐ災害「地震津波災害』を実施いたしました。

○参加者

- ・5日 旭市立三川小学校 参加児童 5~6年生 62名
- ・11日 旭市立富浦小学校 参加児童 4~6年生 85名
- ・30日 旭市立矢指小学校 参加児童 5~6年生 41名

○内容

第1部：(NPO講師)

- ・地震や津波はどの様にして起こるか
- ・津波の特徴
(高波と津波の違い、波長・速度・破壊力等)
- ・これまでの地震津波災害について



被災者の体験談

第2部：(災害伝承語り部)

- ・旭市下永井地区で津波に巻き込まれた方の体験談

第3部：(NPO講師)

- ・地震が起きたらどうするか

第4部：(旭市防災担当者)

- ・市の津波に対する防災対策について



R3.11.11 旭市立富浦小学校

■ <災害復旧及び災害防止事業功労者表彰について>

災害復旧及び災害防止事業功労者として、公益社団法人 全国防災協会から令和2年度に前 長生土木事務所長の米良信雄様が、令和3年度に香取土木事務所長の山口浩様と長生土木事務所長の橋本大義様が表彰されました。



米良信雄 様



山口 浩 様



橋本大義 様

■ <土砂災害危険箇所点検への参加>

土砂災害防止月間（6月）の事業として行われる土砂災害危険箇所点検（通称 がけ点検）に、当 NPO でも積極的に取り組んでいます。その詳細は以下の表のとおりです。

令和3年度（実施期間 令和3年6月14日～7月28日）

近年の実施状況（点検箇所数）

平成28年度	892箇所
平成29年度	876箇所
平成30年度	832箇所
令和元年度	841箇所
令和2年度	871箇所

土木事務所名	実施日数	点検箇所数	NPOの参加者数	土木事務所名	実施日数	点検箇所数	NPOの参加者数
千葉土木事務所	4	22	3	海匝土木事務所	2	23	3
葛南土木事務所	2	62	3	山武土木事務所	2	12	4
東葛飾土木事務所	4	52	4	長生土木事務所	1	92	6
柏土木事務所	2	26	4	夷隅土木事務所	7	79	7
印旛土木事務所	6	110	12	安房土木事務所	5	119	8
成田土木事務所	3	48	6	君津土木事務所	3	54	11
香取土木事務所	1	40	5	市原土木事務所	1	87	8
銚子土木事務所	2	20	4	計		846	88

■ <あるくパトロールへの参加>

「道路を守る月間」（8月）の事業として、毎年土木事務所が行っている「あるくパトロール」に、令和3年度は12土木事務所管内で参加しました。（令和4年1月末現在）

NPO防災千葉からの参加は新型コロナウイルス感染症の影響で中止した土木事務所があり、例年よりやや少ない延37名でした。

近年の実施状況（参加延人員）

平成28年度	58名（13土木事務）
平成29年度	63名（14土木事務）
平成30年度	52名（14土木事務）
令和元年度	54名（14土木事務）
令和2年度	40名（13土木事務）

■ <防災訓練への参加>

令和3年11月5日に実施された千葉県国土整備部震災対応訓練に当NPOからすべての土木事務所管内で合わせて51名が参加しました。新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するため、訓練は携帯メール等による情報伝達訓練を中心に行なわれました。